

特集

就職、転職でキャリアを磨く

オーストラリア/日本で「働く」

どの企業で、どんな働き方で、何を仕事として生きていくか、「働く」ことは誰にとっても等しく大きなテーマだ。語学力アップや資格取得を目的に来豪した人、オーストラリア国内または日本や別の国での就職・転職を考える人、将来の可能性を模索している人に、日豪での就職に必要な準備や最新の採用動向などを専門家のアドバイスと共にお届けする。

資格取得、語学力アップ
～仕事に必要な技能を高める～

オーストラリアで使う資格

仕事に就く際、職務経験が重要視されるオーストラリア。職種によっては経験に加えて有資格者であることが必須の場合があるが、未経験のジャンルの仕事に就こうと考えるならなおさら、自己アピールのためにも資格取得は有効と言えるだろう。以下のような資格は、民間のカレッジなどで数日間のコースを受講して取ることが出来る。

オーストラリアで使える資格の例

●RSA

アルコール飲料を扱う飲食店（バー、レストランなど）で必要とされるRSA（Responsible Service of Alcohol）。この資格を持たずに顧客に酒類を提供することは法律で禁止されている。

●パリストタ

エスプレッソを始めとするコーヒーをいれる上で専門的な知識を持つパリストタは、広く世界で通用する資格。中にはラテアートを習いたいという理由で始める人も多い。政府公認の証明書と各学校発行の証明書がある。

「専門性」を身につける

これまでの職種や業界からのキャリア・チェンジを考えるなら、専門的・実践的なスキルを身につけておく必要がある。オーストラリアでは、VET（Vocational Education and Training）と呼ばれる就職や高等教育機関への進学に役立つ職業教育訓練を受け、コースの修了資格を取得して仕事に役立てることが可能だ。この資格を提供しているのが、TAFE（ティフ、Technical and Further Education／職業訓練専門学校）と呼ばれる政府機関と、民間の専門学校（カレッジ）。実社会のニーズに基づいた専門知識や技術が得られ、講師陣も各業界での実務経験者が多い。コースによってはインターンシップを含むものもある。VETの学位はレベルに応じてサーティフィケート1～4、ディプロマなどがあり、受講期間は学位により数カ月から3年までと大きく異なる。

TAFEなどの専門学校で学べるジャンルは幅広いので、興味や人材需要などを考慮して慎重に選択したい。ビジネス、IT、建築、エンジニアリング、チャイルド・ケアや高齢者介護、医学、看護学、フィットネス、

アート、メディア関連、ホスピタリティー、農業、ワイン製造など、実にさまざまなコースが用意されている。

英語を学び仕事に生かす

語学学習を目的にオーストラリアへやって来る人も多いが、効率的に学ぶためには自分が最終的にどのレベルに到達したいのか、あらかじめ目標を定めておく必要があるだろう。ひとりで「英語力を生かして働く」と言っても、①オーストラリアで働く、②日本にある一般企業／外資系企業で働く、③日本で英語を教える、④他の国で働くなど、将来のビジョンを明確にすることで学習の目的が絞りやすくなるはずだ。

J-SHINE、TECSOL、TESOL

「英語を教えること」を仕事にしたい人は、オーストラリアで以下のような資格取得のためのコースを受講することも出来る。

●J-SHINE

小学校英語指導者資格。受講し資格を取得すると、日本の小学校や英会話教室の児童コースでの就労が可能。

●TECSOL

12歳未満の子どもに「英語を使って英語を教える」ための世界的な資格。

●TESOL

12歳以上の子どもや大人に「英語を使って英語を教える」ための世界的な資格。

◆TOEICスコア、ビジネス英語、インターン…
「就職に求められる英語」とは？

（取材協力：BBIジャパンセンターオーストラリア/大橋さん）

日本の企業が今一番求めているのは、外国人と渡り合うことが出来る「グローバル人材」です。これは、英語などの外国語を操ることはもちろんのこと、外国人のものの考え方、仕事の進め方などを知っていること、彼らと分け隔てなくコミュニケーションが取れること、そして日本の仕事の風習、習慣をきちんと理解している人材です。その背景には、日本の雇用形態が外国人労働者に頼ざるを得ない環境になってきていることと、外国に進出する企業の増加という実情があります。

従って、日本においては外国人を指導出来る人材が求められ、海外においては外国人と一緒に働くことが出来る能力を求められます。それらを踏まえオーストラリアに留学中には、英語の職場環境や外資系で働けるレベルのTOEIC730点以上を取得し（履歴書に書けるのは最低600点以上）、ビジネス・レベルで英語が使えることを証

明する資格の取得や訓練が必要です。英語の実務能力証明には、ケンブリッジ検定、BULATSなどビジネス・レベルの実践力が証明できる資格の取得、ビジネス・コースの受講などの選択肢があります。

また日本の企業でも、実践的な英語力が身につく英語環境でのインターンシップ経験を求めるところもあります。実際に経験していないと実務レベルの英語にはなりませんし、外国人の仕事のやり方などを見ることも出来ません。よって大事なことは、①必ずTOEICのスコアを取得すること、②実践レベルでの英語力の習得をすること、③英語環境での職場経験をすることです。

他にも、オーストラリア（海外）にいることで、日本の良さなど日本人としてのアイデンティティを再確認し磨くこともとても重要です。就職時期や帰国時期を見越してそこから逆算し、いかに計画的に上記の内容を留学中に行うかが重要となります。



留学を生かした就職へ
帰国後、英語環境で働くわたしになる!

生かせ日本人スキル

Japan Centre Australia
英語求人ナビオーストラリア総代理店

帰国後、英語環境で働く仕事に特化した人材紹介です。今、日本の企業は外国人と渡り合える人材を必要としています。従って、その人材になるために、留学中に何をすべきかプラン立てが重要です。ジャパセンは TOEIC 公式テストセンター、海外職場経験のインターンシップ手配専門なので就職サポート含めて必要な事が全て対応できます。

ジャパセン 就職

まずは無料登録から!!

TEL : 02-9267-4002

Email : info@japancentre-au.com
http://www.japancentre-au.com/
Suite 3.03, 39 Liverpool Street,
Sydney, NSW 2000

ジャパセンは、真の国際人を育成する会社です

◆海外経験後、第2新卒や既卒者の就職活動のポイントは？

(取材協力：帰国キャリアドットコム/オーストラリア担当・岩淵さん)

新卒以外の方が海外経験を経て日本で就職を希望する場合、まずデメリットとして考えておかなければいけないのが、当然ながら、留学していた年数分の実務経験の差が出るということでしょう。大げさな表現ですが、例えば、サッカー選手で言うならレギュラーで試合・練習をしていた選手と、1年間オフを取ってリラックスしていた選手くらいの違いがあると思いますし、そういう見方をする人事担当者もいるということをお覚えておいてください。それを念頭に置いて、海外生活で何をされたのかを履歴書や面接でしっかりアピールすることが大切です。インターンやボランティアなど、仕事以外にも何かを学んだり自分が向上したものを上手に伝えましょう。

メリットはやはり、海外経験そのものだと思います。異文化交流の中で育まれたコミュニケーション能力、サバイブする力、その他+αの経験が、他の人とは違う力になっているはずですね。

就職活動のポイントとしては、言われたことしか出来ない人材になるよりも、せつ

く海外に出たのですからその経験を生かすことを意識しておくことでしょうか。考えて行動し、PDCA (plan-do-check-act) とトライ&エラーを繰り返しながら売上・利益を作れる人材が理想ですね。

まずは企業、人事、働き方など、さまざまな情報を収集し、個人に合ったブランディングや見せ方を工夫するサポートをしてくれる就職エージェントなどを活用することをお勧めします。



◆オーストラリアでの経験、日本向けの履歴書にどう書く？

(取材協力：BBIジャパンセンターオーストラリア/大橋さん)

オーストラリア留学中の経験を「日本での就職」のための履歴書に書く場合、学歴やこれまでの社会経歴に加え、①TOEICスコア、②実務レベルでの英語力、③英語環境での職場経験、④日本人及び外国人との関わり方などを履歴書や職務経歴書に記載することはとても重要です。特に職場経験は、ただ単にその事実を記載するのではなく、可能な限り具体的に、いかに外国語を使い、どのように外国人と関わり、業務でどんな成果を上げることが出来たかを記載することがポイントとなります。

例えば飲食店で働いたとしても、単に「飲食店でウェイトレスをしていた」と記載するより、「オーストラリア人のお客様に喜んで頂くために、時候のあいさつから始まり、楽しんでいらっしゃるかを確認したり、1つひとつの商品の説明など積極的に話しかけることを心掛けることにより、追加オーダーやリピートにつなげることが出来た」「スタッフ同士は英語でコミュニケーションを取らなければならなかったが、勤務期間の後半はリーダーとして新人の指導を英語で行った」など、具体的にどのようにその仕事

に関わったかを表すことが必要です。

このように具体的な表現をすることによって、いかに外国人と関わっていたか、対応していたかを、相手にイメージしてもらうように履歴書に記載することが重要となります。当然、履歴書にそう書くためには実際に語学力や訓練、そして多くの経験を積むことが不可欠です。

上記の例のように、日本食レストランでの仕事も心掛けや対応の仕方によっては、履歴書に書くことで自己アピール効果のある仕事になるわけですが、当然これが完全に英語環境の職場などであればなおのこと。従って、企業インターンシップ、ホテル有給インターンシップ、学校インターンシップなど、英語環境で働く職場経験を実際に多く積んでおくことがやはり重要になります。



◆アタック先の業種、職種…留学生はどうやって選ぶ？

(取材協力：帰国GO.com/遠藤さん)

企業選びの「軸」の検討を

オーストラリアに限らず、海外での留学経験者に共通することですが、自身の語学力や海外との関わりを基準に検討する学生が多いです。

数多くの企業の中から自分の志向に合う企業を探す際には、まずは企業選びの「軸」を検討することをお勧めします。例えば、海外で働きたい、少数精鋭の企業で働きたい、外資系企業で働きたい、専門性を身につけたいなど、自分なりの軸をはっきりさせましょう。

また、大切なのは「徹底した自己分析」です。今まで頑張ってきたことや真剣に取り組んできたことについて、どのように困難を乗り越え、その経験で何を学んだのかを分析し、客観的かつ根拠のある「強み」を見つけましょう。そして、その強みを活かせる業種、職種を選んでいくと良いと思います。エントリーシートや面接では、その企業でやりたいことに対し、強みを生かして貢献できる点もアピール出来る点が良いですね。

人気の業種、留学生を積極的に採用する企業
留学生に人気の業種は、語学力を生かしてグローバルに働けるコンサルティング会社、商社、メーカーです。

留学生を積極的に採用している企業としては、海外売上比率が高い、もしくはこれから海外展開を加速させたいと考えているメーカー、その中でもあまり知られていませんが、特にBtoBメーカーや医療系の企業に高いニーズがあります。海外売上比率の高い企業を選べば、海外ビジネスに携われる機会が多くあるということです。医療業界

に関しても、世界中でヘルスケア・ビジネスが加速し、国の枠を越えたプロジェクトが一層進むことで、留学生のニーズも高くなってきています。

留学生の2018年就職活動時期についてですが、企業によっては一時帰国中(2017年春夏)の留学生向けの選考スケジュールを設けていたり、また6月末に留学生向けの就職イベントなどもあるので、こうした機会を逃さず参加しましょう。ただし、帰国時期が遅いと採用枠が少なくなるため、オーストラリアにいる間にエントリー(書類選考)を済ませ、早めに日本へ帰国して面接を受けることをお勧めします。



◆「日本以外」の国での就職、どうやって挑戦する？

(取材協力：BBIジャパンセンターオーストラリア/大橋さん)

アジアを舞台に活躍する

日本人の場合、オーストラリア留学後にアジア諸国で就職することもよくある選択肢の1つです。アジアに拠点を持っている日系の会社も多く、そのほとんどは日本語と英語の両方を使っている仕事となります。



エントリーの必要条件

こうした企業の求人に入社する場合、通常は4年制大学卒業以上の学歴、2年程度以上の社会経験、TOEICスコア700点程度以上の英語力が必要です。よって、オーストラリア留学中に必要なことは、TOEICスコアの取得、英語環境での職

業体験及び実務レベルの英語力を備えておくこと。アジア諸国での就職を考えている人は、これらの点を意識しながら海外生活を送ってみましょう。

留学生の就職サポーター
帰国GO.com
www.kikokugo.com

新規会員登録はこちらのQRコードからどうぞ!



※QR読み取りがデバイスにない場合はアプリをダウンロードしてからご使用下さい。



留学生の就職活動を支援する充実したサポート!

10年以上の実績と高い内定率
グローバル企業の紹介
就職カウンセリング・アドバイス
ES添削、模擬面接の実施
会員限定参加のWEB企業説明会

info@kikokugo.com https://www.facebook.com/kikokugocom/

帰国GO.com 紹介企業

